



決勝レポート

2009/6/28 Rd-4 富士スピードウェイ

予選日の暑さはどこへ、決勝の富士はまたまた肌寒い不安定な天候で幕を上げた。朝のフリー走行はドライ路面であったが、お昼を過ぎるころから雨脚が強くなり、決勝は完全なウェットコンディションの中、セーフティーカーによる先導でスタート。DOCOMO TEAM DANDELION RACING の両ドライバーは、スタート当初からノーピットストップ戦略を選択。燃費を気にしながらの走行ながら着実にポジションを上げていった。

ところが、伊沢選手がまさに9位争いを制しようとした33周目、雨脚の強まった高速コーナーの出口で痛恨のスピン。伊沢選手はここでリタイヤとなってしまった。

このスピンによりセーフティーカーが導入され、これを機にほとんどの車両が給油のためピットイン。ノーピット戦略のライアン選手は3位までジャンプアップする。

少燃費走行にもかかわらずベストタイムを更新しながら2位を狙うが、大雨では思うようにパスできず、3位表彰台で長くタフなレースを終えた。

40:リチャードライアン選手 決勝3位

今週末は新セットアップの開発テストから始まり、予選では思うようなパフォーマンスを発揮できませんでしたが、決勝の難しいコンディションの中、レースチームはベストな戦略で、ドコモ通信実験チームはクリアな通信インフラで、私を表彰台に導いてくれました。

今回のような困難な環境では特に、他チームやセーフティーカーの動向など、まるでエンジニアが隣にいるような、安定してクリアな通信環境に助けられました。

チームはレース毎に強くなっています。あとは予選での速さを取り戻したいですね。

41:伊沢拓也 選手 リタイヤ

レースペースは良かったのですが、この大雨では簡単にオーバーテイクはできませんでした。レース途中でいくつかのマイナートラブルもあり、集中力を維持するのが大変な場面もありました。

スピンは完全に自分のミス。ライアン選手、チームともにポテンシャルは高くなっているので、鈴鹿では2台そろって好成績を残せるよう、検証を重ねて臨みます。